

市川レポート

日経平均株価は歴代3位の下げ幅を記録～下値目途と反発材料を探る

- 日経平均の下落は値がさのAI・半導体関連銘柄が主導、また下げ幅自体に過度な反応は不要。
- 下値目途は62,700円、61,000円、60,000円、数日で67,000円台回復なら不安は緩和へ。
- 昨日大きく下げた日経平均だが昨年4月以降の上昇方向のトレンド・チャネル内で推移が継続中。

日経平均の下落は値がさのAI・半導体関連銘柄が主導、また下げ幅自体に過度な反応は不要

日経平均株価は10月15日、前日比3,318円34銭（4.9%）安の64,425円95銭で取引を終え、下げ幅は歴代3位の大きさを記録しました。前日の米国株式市場で、人工知能（AI）向けクラウドサービスのコアウィーブの信用不安が強まり、米ハイテク株が軒並み下落、国内のAI・半導体関連銘柄に売りが波及し、日経平均の下げを主導しました。先行きがやや見通しにくいなか、今回のレポートでは日経平均の下値目途と反発材料を探ります。

なお、日経平均は値がさ株の影響を受けやすいという特徴があります。昨日の日経平均に対するマイナス寄与度の大きい上位10銘柄は図表1の通りで、値がさのAI・半導体関連銘柄が並び、この10銘柄だけで下げ幅の9割弱を説明できます。また、日経平均の下げ幅は歴代3位ですが、下落率は上位20位にも入りません。当然ながら、株価の数字が大きくなるほど、同じ下落率でも下げ幅は大きくなるため、下げ幅に過度な反応は不要と考えます。

【図表1：日経平均下げ幅の寄与度上位10銘柄】

順位	銘柄名	業種（東証33業種）	寄与度（円）
1	アドバンテスト	電気機器	-1,303.11
2	東京エレクトロン	電気機器	-442.45
3	ソフトバンクグループ	情報・通信業	-403.72
4	イビデン	電気機器	-172.87
5	フジクラ	非鉄金属	-133.49
6	キオクシアホールディングス	電気機器	-128.13
7	TDK	電気機器	-125.66
8	レーザーテック	電気機器	-82.93
9	村田製作所	電気機器	-60.84
10	ファナック	電気機器	-57.81
寄与度合計			-2,911.01

（注） データは2026年10月14日から15日。日経平均株価の下げ幅に対する寄与度の大きい上位10銘柄。四捨五入の関係で合計が合わない場合あり。
（出所） Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【図表2：日経平均株価のトレンド・チャネル】



（注） データは週足。2025年1月10日終了週から2026年10月16日終了週（2026年10月16日終了週は15日まで）。
（出所） Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

下値目途は62,700円、61,000円、60,000円、数日で67,000円台回復なら不安は緩和へ

日経平均の下値目途は、①62,700円（9月14日の取引時間中につけた安値水準）、②61,000円（昨日10月15日時点の200日移動平均線水準）、③60,000円（心理的な節目）などが挙げられます。ただ、日経平均がこの先数日で67,000円台を回復し、明確に上昇の動きを強めることができれば、10月2日付レポートで解説した一目均衡表の雲上限（先行スパン2）と下値支持線を再び上抜けることになり、下値不安はいったん和らぐとみえています。

また、昨日付レポートでも触れた通り、来週から本格化する米大手ハイテク企業の決算発表では、①先行きのAI需要と設備投資計画、②設備投資と収益成長のバランス、③フリーキャッシュフロー（純現金収支）の変化、④AI関連売上高における循環投資の構造、⑤AIインフラ投資の資金調達方法、⑥決算発表後の信用リスク動向などが注目点です。いずれも懸念がなければ、AIを巡る市場の警戒が弱まり、日経平均の反発余地は広がると思われます。

昨日大きく下げた日経平均だが昨年4月以降の上昇方向のトレンド・チャネル内で推移が継続中

最後に、日経平均について少し期間をとり、昨年からの動きに注目してみます。図表2は日経平均の週足で、「2025年4月11日終了週の取引時間中につけた安値」と、「2026年4月3日終了週の取引時間中につけた安値」を結んだ線を引き、その線に対して平行に、「2026年2月27日終了週の取引時間中につけた高値」を通る線を引いた「トレンド・チャネル」を示しています。

これをみる限り、日経平均は依然として上昇方向のトレンド・チャネル内で推移していることが分かります。参考までに下限の水準は、10月30日終了週で62,100円台、11月6日終了週で62,500円台にあり、これらも下値目途として意識されやすいと思われます。日経平均は前述の通り、短期的に値がさのAI・半導体関連銘柄の動きに左右されやすい特徴がありますが、少し長い期間でみれば、上昇トレンドは継続中と判断されます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたもの又は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。■当資料の内容は、当社が行う投資信託および投資顧問契約における運用指図、投資判断とは異なることがありますので、ご了解下さい。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会



三井住友DSアセットマネジメント